

いわき市立草野心平記念文学館

いわき七夕まぼろしの朗読会

2020

心たいらけく

いわき七夕まぼろしの朗読会

心たいらけく



目次

立川 玄	孤独とアイフォン	4
豊増 美晴	天の	7
長久保 鐘多	コロナウィルス辞典	10
紅 育	福島へ	12
忍 冬	嵐にムーンサルト	16
歌村 あかね	砂山	20
為平 滯	青い鳥	23
雪之 情	天災は忘れた頃に	26
遠藤 仁	高原の風に吹かれて	28
大山 いづみ	冷めたコーヒー	31
新井 隆人	空のささぶね	34

いわき七夕まぼろしの朗読会

川添 ヨシ子	サクランボ	37
白島 真	男女混声ユラボ朗読のために	39
沙 羅 樹	七夕夜舟	45
岩田 武昭	かもしれない運転	47
木村 はる 兔		49
齋藤 純二	いわきだよ！全員集合！	52
元ヤマサキ深ふゆ	展望台から	55
内藤 奈美	かたち	59
大山 大 鎌倉の小径		60
山口 礼子	心	61
小川 葵	お元気ですか。	63
天野 行雄	キチキチバツタ	65

かもしれない運転

岩田 武昭

オートバイを倒し込み

交差点を駆け曲がる

ボクの優雅なライディング

信号待ちの彼女らが

憧れ抱いたかもしれない

となりに並んだワゴン車の

彼女と目と目が合っちゃった

それも三回合っちゃった

冒険的ないでたちに

トキメキ覚えたかもしれない

オートバイを降りたとき

彼女らボクを探し出し

恋が始まるかもしれない
そんな夢見の運転は
最も危ないかもしれない

気づいた時には転倒し
担ぎ込まれた病院で
看護師さんに励まされ
恋が芽生えるかもしれない

チキチキバツタ

天野 行雄

生暖かい曲線を持つ稜線が落ちくぼみ重なり合う
懐に雲はひそんでいて

事象を引き擦り盛り上がる天つちのだんだら宮に
桜の匂いの住所を持って

始まりと終わるところのエクスクラメーションに
注目あるいは不都合なちようこうを示す

そうして花筏は焼け残った夕虹の脚に絡み付いて
はるかな海までミズスマシの困惑を止めない

マスクの下に汗まみれのスマイルポーズを隠して
社会的距離とかに途惑うばかり

ドレミファソラ空・野原^{のフアラ}まで響き渡れと警告の
口笛と陰圧の視線にチキチキチと鳴くバツタ

自然界は野バラに犬歯と云う接ぎ木を育てていた

狂犬病・エボラ・コロナの出所は不明だ

表舞台から葬り去られた古代の都市のかがやきを
言葉を巡らし議論を尽くすよりも

長い柄のシャベル一丁で文献の底を突き破る方が
朝のめい・いていにてき面だった

われらが祖と能わないまま痕跡となった文明から
精霊と呼ばれる種族が紛れ込んで

いまも明日を漉き込んだカリフォルニアロールに
彼らの名前を探している

チキチキバッタは光合成のノアの箱舟のカタチを
受け継いでいた

アリストメリアは哲学者の名を彷彿とさせて咲く

ごめんなさい

泥まみれの銀河と

破けた天蓋

とても渡るゆうきもなく

お会いできません

ベコを連れて帰ります

ゆうきゆうの時間とことばの

機を織るあの方（あなたを含む）

それからベコを飼い

ほとばしることばの乳をしぼる

どうるいのあなたに

あまのがわでひろった

ながれ星のへその緒を

来る年のやくそくとして

おくります

世のうごきにまどわされず

心たいらげく

ありますようにと添えて



いわき七夕まぼろしの朗読会
心たいらけく

発行 日：2020(令和2年)8月7日

編集 人：天乃絵留

発行 人：大山大 大山いづみ 天野行雄

発行 所：句・読・天 amanoelowl@gmail.com

いわき市立草野心平記念文学館 ☎0246-83-0005

頒布価格：500円 ゆうちょ銀行 記号18250 番号05847311